

8 - 4 . 基金の設置

富山港線路面電車化事業への助成のための財源として、「富山港線路面電車事業助成基金を設置し、寄付金を広く市民や企業等に呼びかけ、基金に積み立てることとしている。

基金の現在高(千円)

当初	100,000
寄付金、基金運用益	57,000
県からの補助金	70,000
富山ライトレール(株)出資金からの振替	35,000

262,000千円
(平成18年3月末時点)

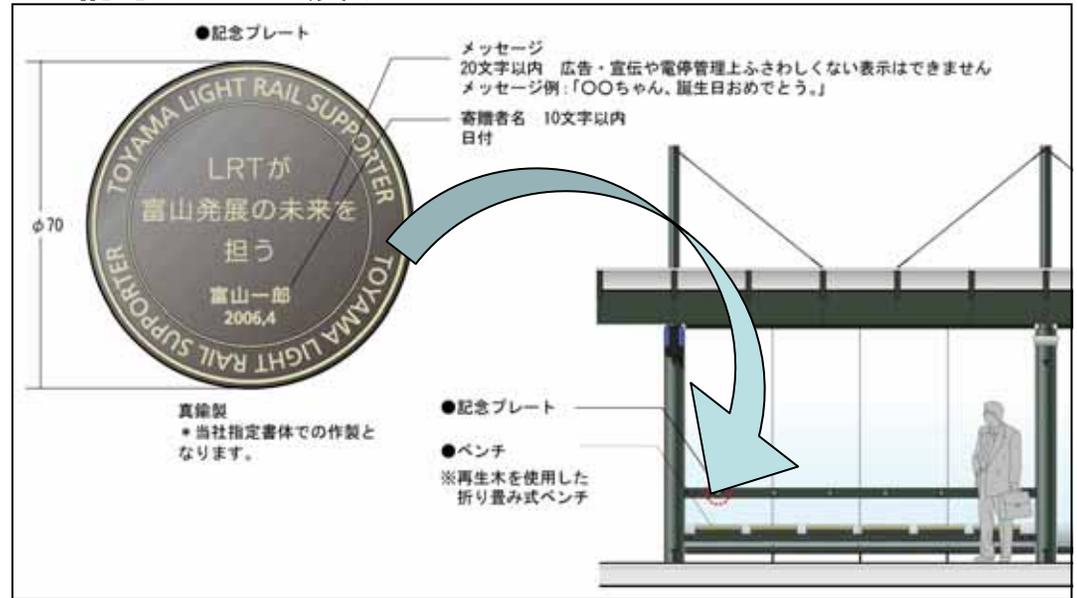
8 - 5 . 市民、地元企業からのサポート

記念プレート及びベンチ

各電停に設置されるベンチの記念寄付を市民や企業から募り、寄付者の記念メッセージ付き記念プレートをベンチに設置した。
(ベンチ1基5万円×168基)

新駅について命名権(ネーミングライツ)を販売。2駅が市内2企業によって命名された。
(1,500万円/駅)

各電停に設けた「電停個性化スペース」に対して、市内16社がスポンサーとなった。
また、市内28社がスポンサーとなり電停に広告を掲示。



電停個性化スペース

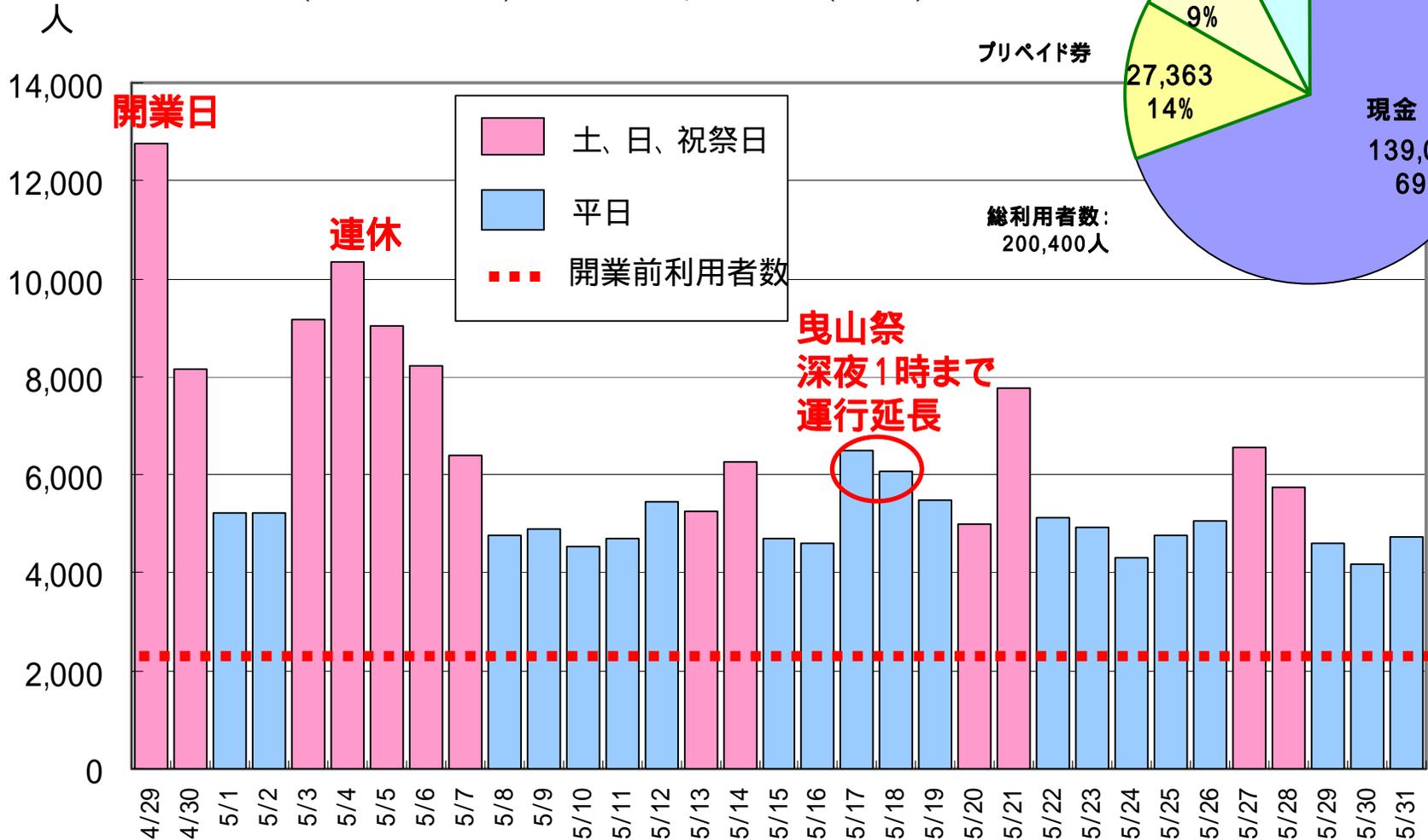
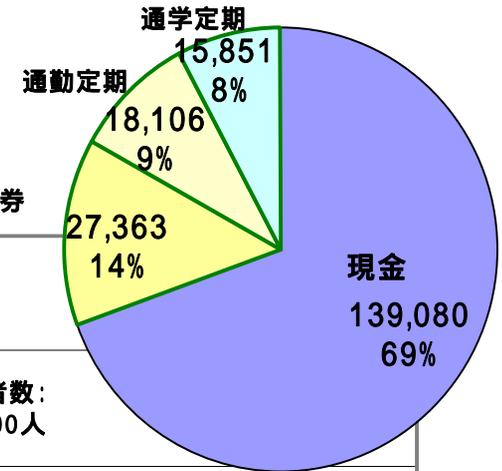
広告スペース

9. ポートラムの利用者数

5月31日までに、20万人が乗車

支払い方法別利用者数

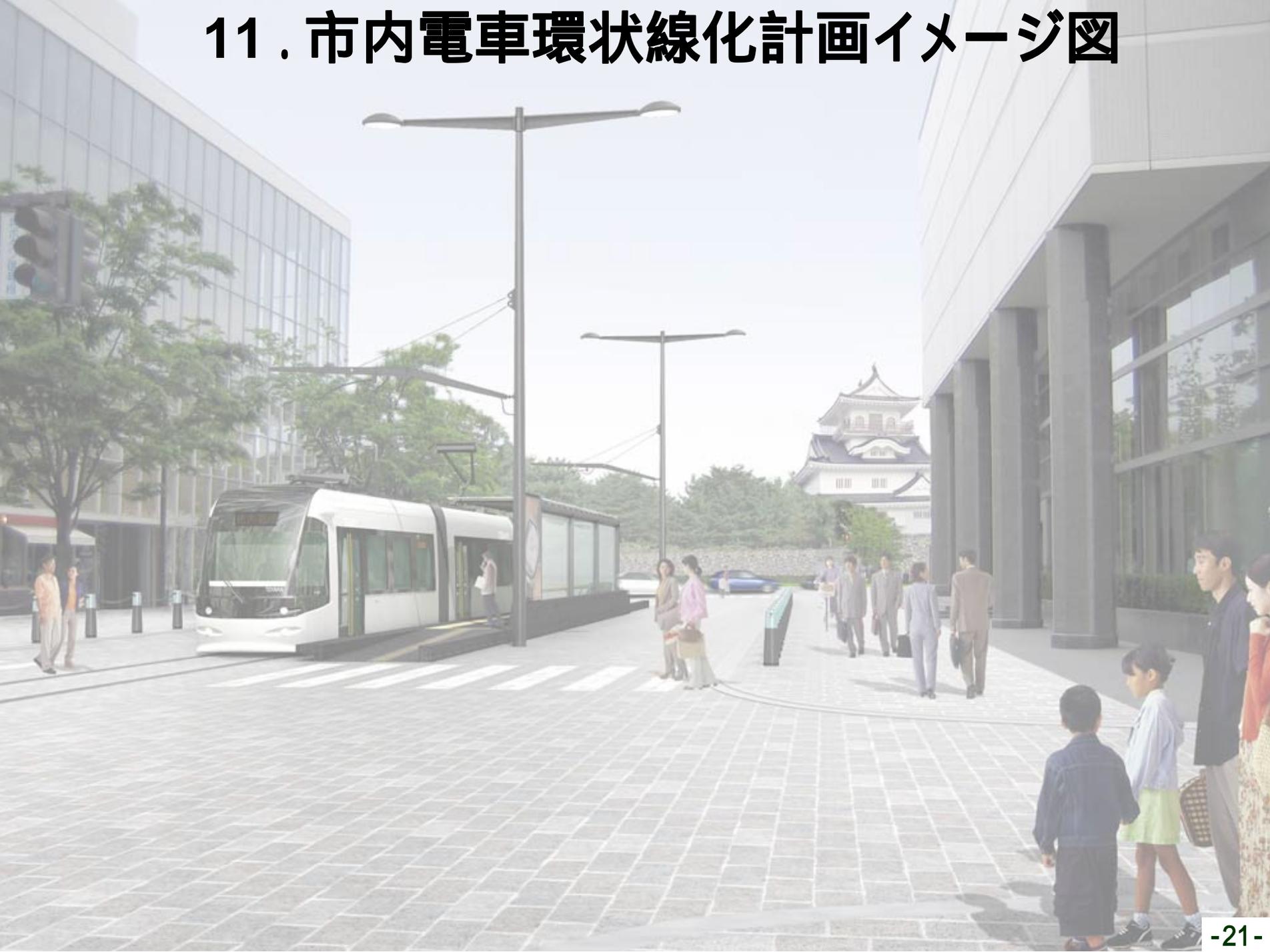
- ・1日あたりの利用者数(4月29日～5月31日の平均)
平日4,989人/日、土休日7,740人/日
- ・開業前(17年10月)の調査 2,266人(平日)



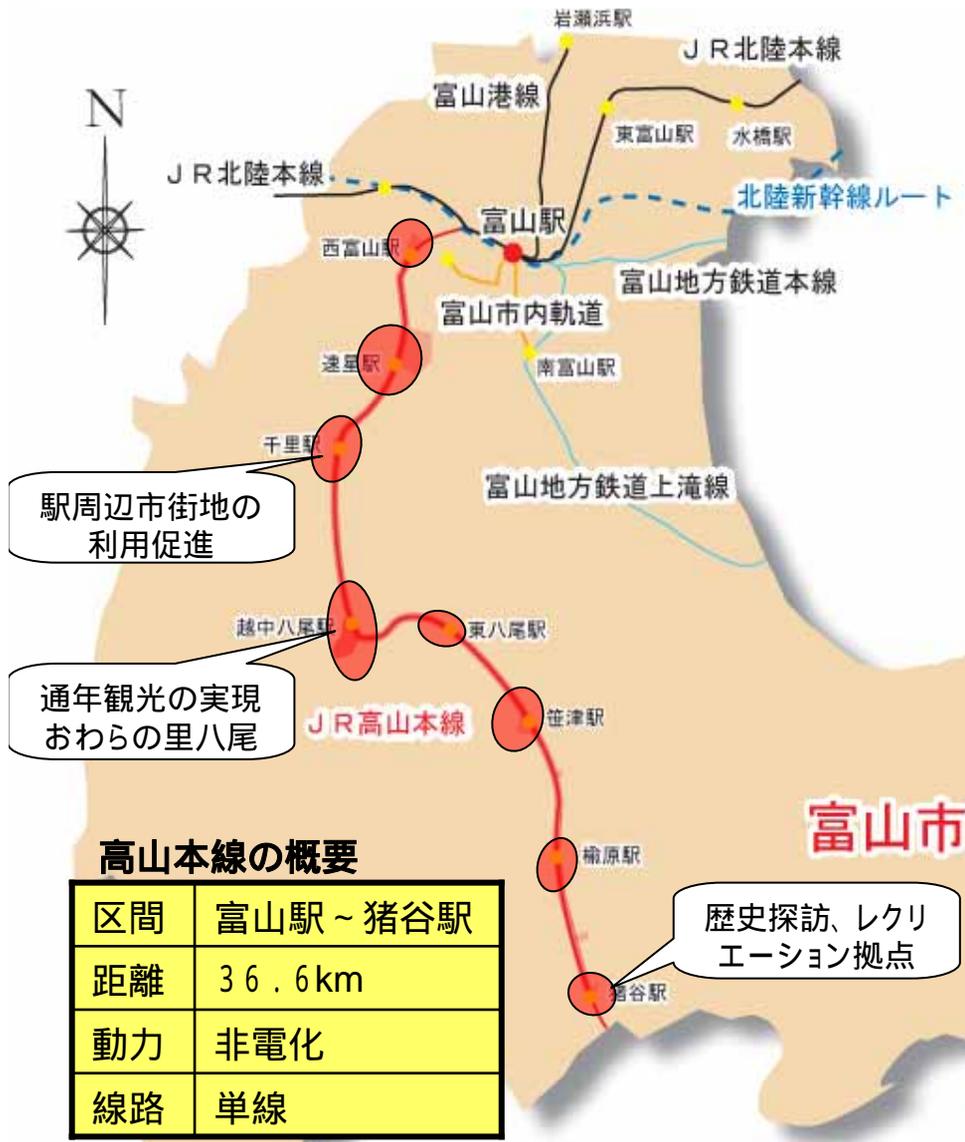
10. 公共交通活性化によるコンパクトなまちづくり構想



11. 市内電車環状線化計画イメージ図



12. JR高山本線活性化社会実験と沿線のまちづくり



JR高山本線は、旧5市町村を結ぶ新市の南北公共交通軸



しかし、利用者の減少とともに、運行頻度の低下により市民の足として十分活用されていない



JR高山本線の活性化と駅を拠点としたまちづくりが必要



- JR高山本線活性化社会実験
- ・運行本数の増便
 - ・フィーダーバス、P & R等の実施
 - ・利用促進(イベント等)
 - 沿線まちづくり
 - ・道路等の生活基盤施設整備
 - ・観光、レクリエーション拠点整備

13.「おでかけバス」について

(1)目的 路線バスの利用促進による中心市街地への来街者の増加を図るとともに、高齢者の足を確保し社会参加を促すことで、中心市街地の活性化に寄与することを目的とする

(2)申込者数

- ・平成18年5月末現在で、18,896人
要介護者を除く満65歳以上人口77,101人
に対する申込者率 24.5%
- ・二次交通活性化プロジェクトに認定(H16.8.27:国土交通省北陸信越運輸局)



(3)利用者数

(単位:人)

内 訳	利用者数	1日平均	平日平均	休日平均
平成17年度利用者	393,927	1,079	1,246	734
平成18年4月(30日)	38,912	1,297	1,511	870
平成18年5月(31日)	39,676	1,288	1,514	859
計(61日)	78,588	1,288	1,514	859

(4)協賛企画について

中央通り商店街（30店舗）、総曲輪商店街（12店舗）、西町商店街（12店舗）をはじめ、百貨店、ホテル、美容店など協賛店77店舗において、「おでかけ定期券」利用者への各種優待サービスを実施されておられます。

市では、「おでかけバス」事業を通じて、中心市街地の賑わいの創出を図るため、商業者の皆さんと一体となり中心市街地の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

